

月刊

リサイクルデザイン

合言葉は
「もったいない」
経由

RECYCLE
Design

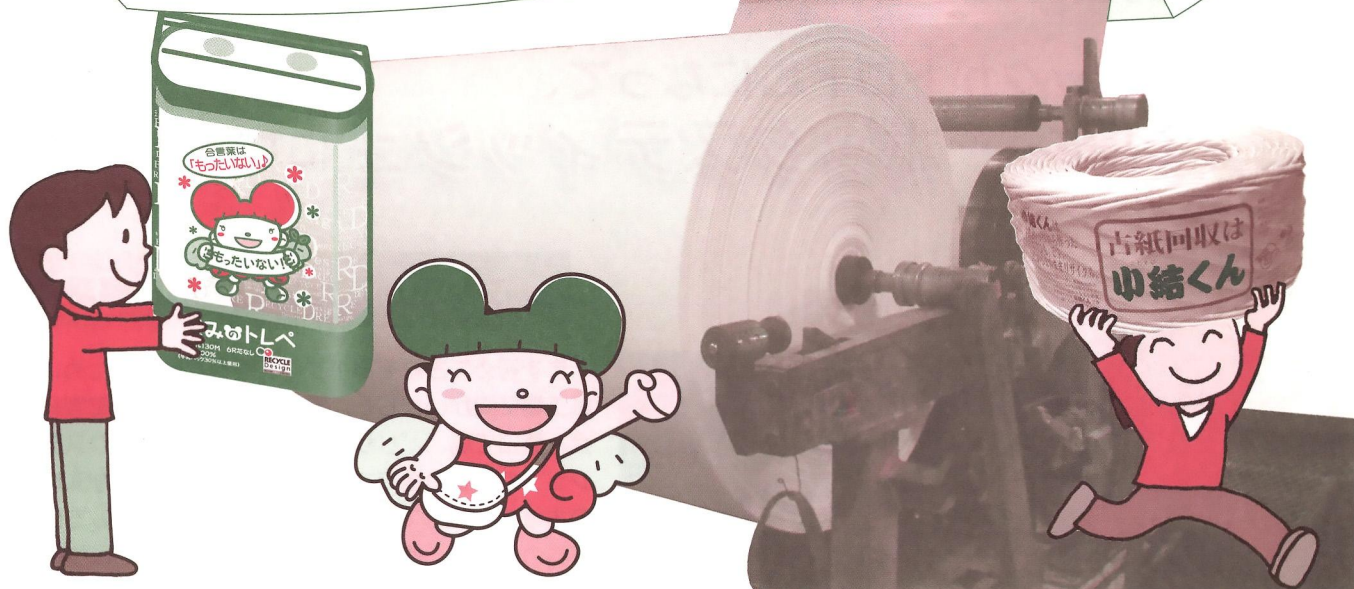
No.149 2007.2

<http://www.recycledesign.or.jp>
Eメールmail@recycledesign.or.jp

特集

りくみのトレぺたちのふるさとを訪ねて

熟練した人の
手と目で守る
古紙再生の現場



●教えて聞かせて…P5

運河の町に残る井戸再生を願う人たち

●リサイクルデザイナー…P6

●尚美のマクロビオティック…P7

●情報ファイル…P7

●18区に聞く！ G30のわがまち自慢…P8

●第6回サポーターズミーティング…P9

平成18年度リサイクルプラザ講座予定

熟練した人の 手と目で守る 古紙再生の現場

これまで『リサイクルデザイン』では“紙はもう一度紙に生まれ変わる”ことをお伝えしてきました。今回は実際に古紙再生の現場まで足をのびし、生まれ変わっていく工程をレポート。向かったのは、本誌オリジナル製品ベスト3（りくみのトレペ、小結くん、ボックスティッシュ）のふるさと静岡県富士市です。



富士市は日本一の紙の町



富士市は全国屈指の紙とパルプの町。新幹線が新富士駅に近づく、駿河湾を遠景にたくさんの高い煙突が見えてきました。製紙工場の煙突です。富士山に端を発する豊かな湧き水が、この町の製紙業を古くから支えてきました。

現在、トイレットペーパーの生産量は全国の3割以上を占め、堂々の第一位です。なんだか、町中に散在する多くの煙突が“一位”の勲章を胸に誇らしげな顔で立っているような気がします。町を縦横に走る水路には音をたてて清

水が流れ、道路を走るトラックの荷台にはできたてほやほやのダンボールや、紙の巨大なロールが積み、道ばたには製紙工場や古紙問屋さんが連なって……、町が紙とともに生きていることを感じさせられます。

紙パックがドロドロになって、 そして……ボックスティッシュになった！



3m以上の高さに積み上げられた古紙。種類別に大きなブロック状にされます。



▲ほら、よく見ると紙コップの切れはしだってわかるでしょ。

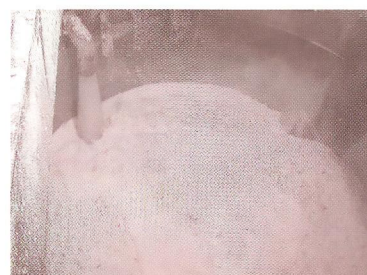
ふかふかした紙の感触に感激

まず初めに古紙を再生する工程を見学するために、製紙工場に向かいました。富士市今泉にある丸富製紙株式会社原田工場、“リサイクルデザイン・ボックスティッシュ”の誕生の地です。ここでは、1ヵ月に約600トンの古紙を利用して480トンの再生紙を製造しています。原料の古紙は、使用済みの紙パックや、紙コップの裁断くず（型を抜いたあとに残る部分）など、上質なパルプからできたものです。製造部部長の山田敏幸さんから、資料をもとに工程についての説明を聞いた後、1500坪の敷地に建つ工場の中を案内してもらいました。

工場への入り口周辺には原料の古紙が山積みです。学校給食で子どもたちが飲んだ小さな牛乳パックも、きちんと開かれた状態で出されていました。紙を加工する工場から運び込まれた未使用のパッケージ類もあります。

大きくて、まるで置んだふとんのような物もあります、何でしょう……「製紙の工程で細かな異物が入り込んでしまった場合、原紙のロール（できあがった紙を巻いたもの）の外側から異物のあるところまではがして除去しなくてはならず、これはそのはがされた部分です。また溶かして紙にするんですよ」とのこと。触ってみると、温かくてふ

かふかしてやっぱりふとんのように。考えてみれば紙の原料は植物から採るパルプ、ふとんの綿も植物なのだから似ているのも当然といえば当然。その当たり前のことに気がついて、紙を使い捨てにするのは本当にもったいないとあらためて思ったことです。何年も使うふとんのように、紙も大切に使いましょう。



高濃度パルパーの中には白くドロドロに溶けたパルプ繊維。



牛乳パックからはがれたポリスチレンフィルム。これもスラッジです。

豊かな水にささえられた製紙業

工場の中で最初に目にとまるのは、金属製の大きなお釜と巨大な地球儀のようなもの。地球儀のようなものは「地球釜」といって、雑誌や紙箱などの“その他の紙”を溶かしてドロドロにする機械です。紙パックなど上等で均質な原料は、もうひとつの「高濃度パルパー」に投入されます。直径3メートルほどの高濃度パルパーの中を上からのぞいてみると……、それはまるでちつき機のようなです。ここに2トンの原料と水を入れ、約2時間、70度の温度を保ってかき混ぜると紙パックの表面に貼って

あるポリエチレンフィルムがはがれ、細かいパルプ繊維と分離されます。この高濃度パルパーは従来の機械よりも水の使用量が抑えられていますが、それでも原料の重量の150倍の水を使うとのこと。1日20トンの古紙原料を再生するために必要な水は3000トン。製紙には大量の水が必要なのです。

はがれたポリエチレンフィルムや、再生に向かない紙のカスなどの異物（スラッジという）は原料の2割ほど出ますが、これらも熱源として燃やし再利用しています。



スラッジも燃やして、すべてムダなく再利用しています。



おぼろ豆腐みたいな古紙原料

溶けたパルプ繊維が次に向かう先は、0.2ミリほどの狭いスキ間の間を通り抜ける「高濃度スクリーン」。ここで細かい異物を取り除き、さらに「精選スクリーン」にかけてもっと細かな異物を徹底的に除去します。スクリーンを通り抜けてきたのは、おぼろ豆腐のような、おかゆのような、一見なんだかとってもおいしそうなものです。この後、

に説明しましょう。網状のロールに吹き付けられたパルプ繊維が、まずは目の荒い湿った毛布の上に乗って移動し、次に目の細かい乾いた毛布の上に乗ります。目の細かい毛布は温かいドラム缶のようなもの（ドライヤー）に巻かれた状態なので、パルプ繊維は回転しながら乾燥し、機械の最終ラウンドに

着くころにはすっかり乾いて再生紙になっている、という仕組みです。これが超高スピードで行なわれており、1分間で長さ600メートルもできるというから驚きです。直径1.8メートル、幅2メートル、重さ約550キロもの巨大なジャンボ原紙ロール1巻（約2万3000メートル）が、40分ほどで完成するそうです。



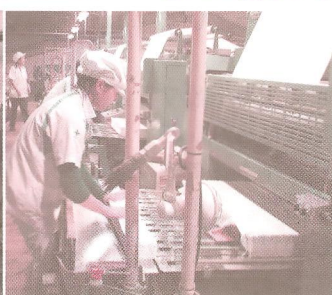
おぼろ豆腐みたいでしょ。

インクを洗い流したりパルプ繊維の長さを整えるなどの行程を経て、いよいよ紙を形作る「抄紙機」に入っていきます。

「抄紙機」を簡単



もう少しで直径1.8mに。



仕上げは細やかな目配り気配りで

できあがった再生紙は、ティッシュ用に2枚重ねにして規定の形に折るところまでが機械の仕事。「インターホルダー」という機械からティッシュの形に折られた再生紙が出てきたら、それを150組ないし200組（リサイクルデ

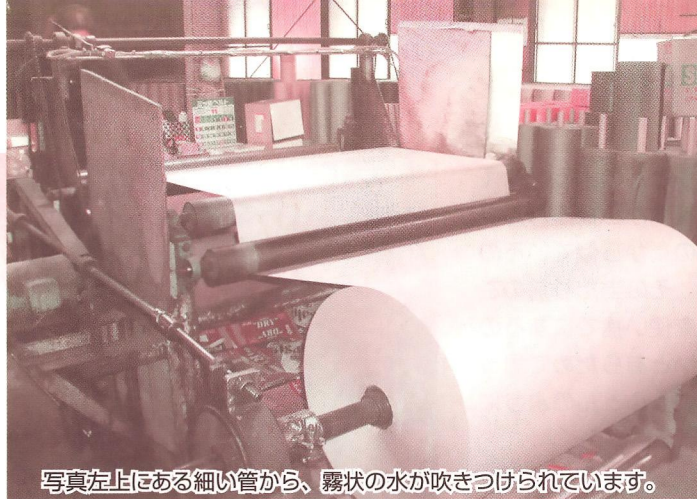
キリビヒと200組ずつに分けます。

ザイン・ボックスティッシュの場合は200組）ずつ取り分けますが、

この繊細な作業は人の手で行ないます。続いて幅を仕上がりサイズにカットし箱詰めにして5個ずつパックしますが、この間の検品作業は人の手と目で細部まで確かめながら行なっています。1日あたり、1箱150組のものなら12万箱も製造するそうですが「最後の仕上げはやはり人です。お客様と直結する一番大切なところですから」との言葉。品質への安心感は、こうした心配りに守られているのだとわかりました。

●製紙工程の説明は、丸富製紙株式会社のホームページにも詳しく出ています。

<http://www.marutomi-seishi.co.jp/recycle/index.html>



写真左上にある細い管から、霧状の水が吹きつけられています。



工場の外で親子並んでもらってパチリ。ちょっと緊張させてしまいました。



親子2代が生み出す 小結くん

紙を
しなやかにするためにも
水



東名富士インターチェンジの近く、富士市伝法にある望月加工紙株式会社で“小結くん”は作られています。戦後間もない昭和20年代にこの会社を興した初代の望月高德さんは、現在会長職をつとめ、2代目社長は息子の大輔さん。家庭的な雰囲気の中、手作り感覚で小結くんが作られています。

工場を案内してもらいました。小結くん製作の第一歩は、製紙会社から仕入れ

た再生原紙の大きなロールから、360メートルの長さの小さなロールに巻き取ること。その機械の様子をよく見ると、巻き取りながら霧状の何かを吹き付けています。「しなやかにするために水をかけているんですよ。こうしないと、次の機械で縫ることができないので」と高德さん。そういえば、紙縫いを作る時は指先につばをつけたりして湿らせますが、それと同じことのように。

木製の機械が今も大活躍

次に、巻き取った長いロールを7センチほどの幅に切り、これを縫る機械にセットします。さて、この木造の機械、壊れたら部品を取り替えるなどの手直しを重ね創業当時から使っているそうで、あめ色の艶を放つ木肌が歴史を物語っています。機械に見とれている間に紙のテープが高速でクルクルと回り、見

る見るうちに紙ひもができあがってきます。作業する女性に話をうかがいました。「私はこの仕事について10年以上になるかな。紙を扱うから手が乾燥して荒れてしまうし、冬はこの機械が起こす風で寒いんですよ。夏は風を感じないのに、不思議ですね」



360mに巻きとったあと、幅7センチにカットする機械。ナイフがスーッと入っていきます。

手作業でラベル貼り

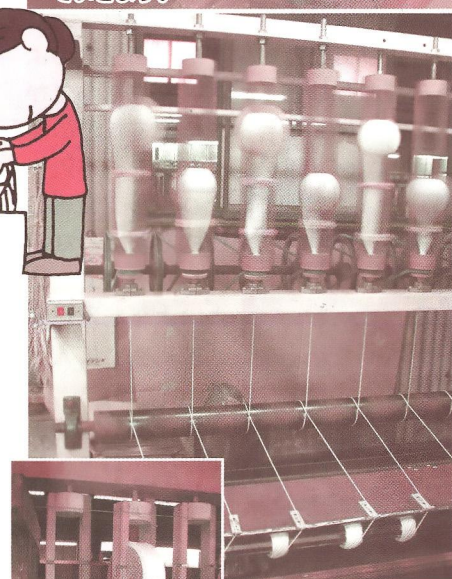


できあがった小結くんにラベルを付けたりセロファンでくるむのは、ひとつひとつ手作業で行ないます。小結くんは、ご希望によりオリジナルラベルを添えることもできます（30メートル巻の場合のみ）が、これは手作りだからこそ可能なのです。

望月さんのところでは、細い紙ひもをボンドで何本も接着して平たいテープ状にした紙バンドも作っていて、近年、その紙バン

ドを使った新しい手芸が女性たちの間で人気を呼んでいます。大輔さんのお連れ合いが作ったというバッグや額縁、花束などの作品を見せていただきましたが、創意工夫に満ちたすばらしいものでした。アイディア次第で、紙ひもの活躍の場はこれからも広がっていくことでしょう。

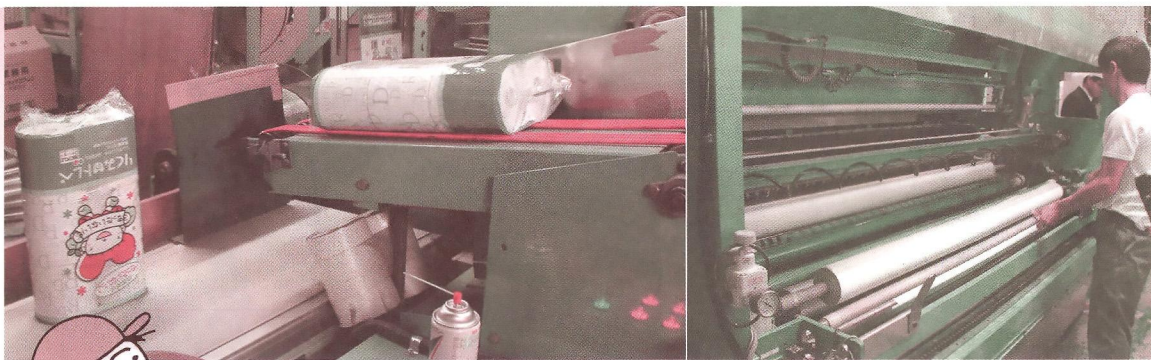
富士市では、市の回収に古紙を出す時は紙ひもで束ねなくてはならないそうです。古紙と一緒にリサイクルできる優れた紙ひも“小結くん”。望月さんたちの紙を愛する心もせて、みなさんの元へ届きますように。



上でクルクル回って縫られたら、下ではどんどん巻きとられ小結くんになっていきます。



昔ながらの木製機械。



このお兄さんが、メジャーを手にして1本ずつ直径を計っています。



ベルトコンベアーからりくみちゃん

りくみのトレペは直径114ミリ！



“りくみのトレペ”は品質の良さと割安感が好評を呼び、おかげさまで注文数がうなぎ上り。現在は平均して月間300ケース（2400パック）生産しています。作っているのは、富士市増川にある丸富紙工株式会社。社長の菊

池秀文さんに工場を案内してもらいました。

まず、直径1.8メートル、幅約2メートルほどの大きな再生原紙のロールから、りくみのトレペの長さ（130メートル）に短く巻き取ります。機械にメートル

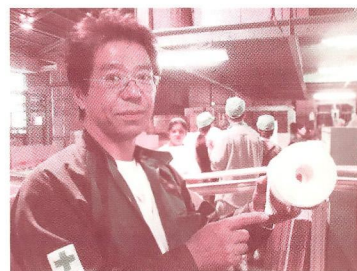
数を入力すれば正確に測ってくれるのですが、ここではさらに正確を期して、手作業で1本1本の直径を計測し基準値以内であることを確認します。

トレペの芯作りにも水が欠かせない

その同じ機械で、巻き取りと同時に行なっているのが芯作りです。りくみのトレペはご存知の通り芯なしロールです。別紙の芯がないので、中心部分をしっかりした状態にしなければペーパーホルダーにセットできません。どうやって“しっかりした状態”にするのかというと、ここにも水が関わっています。水をかけながら、熱した金属の棒に巻き取り、巻き終えたら金属の棒から外してしばらく冷ましておきます。

水分を含んだ紙が加熱されそして冷めていく、その間に芯としてほどよく固まっていくというわけです。

「芯作りが一番難しいんですよ。このあと両端を切り落として1本を16等分に裁断しますが、芯がうまくできていないと裁断時につぶれたりゆがんでしまうんです」と菊池さん。もちろん、形が崩れたものは検品ではねられますが、裁断クズなどと一緒に再び製紙工場に運ばれ製紙原料として再利用されてい



「芯なしロールは、芯作りがたいへん。この穴がきれいに丸い状態にできなくてはいけませんよ」

るそうです。

裁断、検品のあとはベルトコンベアーに乗ってオリジナルパッケージへまっしぐら。ハイ！ りくみのトレペのできあがりです。このあと、りくみのトレペは8パックずついねいにダンボールの箱に入れられて一路横浜を目指します。



※本物のトレペに顔は書いてありません…

1
地球にやさしい
エコロジー
環境を考えた
シンプルなデザイン

★再生紙100%
★1ケース 48個入り
（6個入り×8パック）
★シングル
★130m ★芯なし

★再生紙100%でできています。
（牛乳パック30%以上使用）
★シングルだから使いすぎない。
★芯なしだからごみが出ない。
★余計なものは省きました。
（カット線、香り、模様…なし）

2

エコノミー

かさばるトレペが
自宅に届く！

税・配送料込みで、この価格

…1パックあたり375円

★12個入りより11個分お得！
通常のトレペ…60m×12個=720m
りくみのトレペ…130m×6個=780m
この差が60m巻で1個分に相当します！

「一度使ったトイレトペーパーはリサイクルできない…ならば再生品を使おうという考え方から生まれたこの商品…一度使ったらもうあなたは「エコの達人」

“合言葉は「もったいない」♪”
キャンペーン価格！

1ケース（6個入り×8パック）

3,000円

※関東以外の配達は、別途料金がかかります。
※ご注文は1ケースからになります。
※代金は銀行・郵便局より振り込み（振込料はお客様のご負担でお願いします）
※100ケースまとると更に安く！

●ご注文・お問い合わせは

横浜市資源リサイクル事業協同組合

…電話 045・444・2531 FAX 045・444・2532



1パック
375円



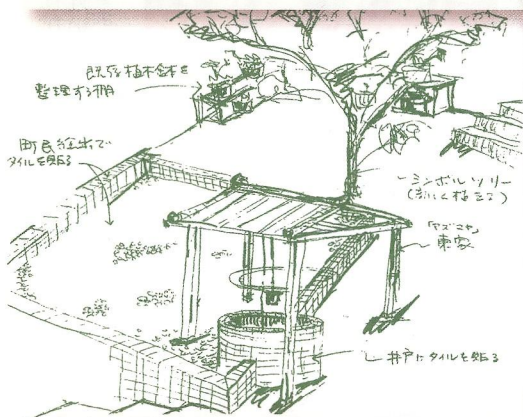
教えて、聞かせて

運河の町に残る井戸

再生を願う人たち



井戸を見た事がありますか？ 井戸というのは地中に穴を掘り、土管やコンクリート管を埋め込んでいき、地下水脈まで達すると水が貯まる仕組みを利用して、生活に必要な水を得る設備です。昔の町中では井戸が生活水の水源でした。さてその地下水はどこから来るのでしょうか？ 雨が降ると、草や木や地面から地中にしみこみます。谷や低いところへ川となって流れ込む雨水もありますが、樹木が多いところはゆっくり表土から砂や礫の層を通り、水を通しにくい粘土層や固い岩盤の上までたどり着きます。水は低いところへ流れる性質がありますから、地中でも流れがあり、時には下方の地上にわき水としてでてくるのは町中でも見られます。地下水とは、地中に流れる川のようなものと言っているかもしれません。



神奈川区浦島町、子安町には、なんと今でも16カ所の井戸が残っていると聞き、訪ねました。案内人は浦島町まちづくり協議会の事務局加藤勇治さん。長く漁網などを扱うお店を続けておられます。かつて浦島町は海辺の漁業の町だったのです。大正時代に海浜埋め立てが始まり、船の並ぶ浜はなくなりました。現在は入江川第二河川と呼ばれる運河に穴子漁に出る船が浮かんでいます。運河の向こうは埋め立て地で建築物があり、さらにその向こうには東京湾が広がるのです。お店がある第1京浜道路沿いに協議会代表の豊崎昭三さんの電気屋さんの前を通りすぎ、加藤さんの後を付いていきました。家々の間には人一人ようやく通れるくらいの路地が迷路のように続き、たどり着いたのは井戸のある辻広場でした。そこは路地の交差点でもあります。井戸は昔から、洗濯や炊事する場所でした。浦島町は漁業の町ですから漁を終えた後、漁網を真水で洗ったり、捕った魚を捌くのに井戸は必要でした。井戸の周りの家々はみな漁業をしていたそうです。井戸は周辺の何軒かで共有していて、運河（元はそこが浜辺だった）沿いの町にはたくさんの井戸がありました。現存する16カ所の井戸は、ポンプ（水を地下から吸い上げる道具）が付いていて今も洗い物に使われているところもありますが、植木鉢の水やりくらいの利用がせいぜいで、蓋をされたままがほとんどです。

まちづくり協議会の人たちは、せっかく残る井戸を現代に生かせないかと考えました。

災害が起きたとき、まず必要なのは水です。停電後、水道が止まった時に使える井戸にしたい。町の皆が井戸の場所を知っていれば、そこはいつきの避難場所になり、情報交換の場所になるだろう。火災時の消火用にも使えるのでは。普段は子どもの遊び場、洗い物、水やりなど生活用水に利用できるよう、町に住む人々の様々な思いを集めて井戸の周りを整える構想を持ちました。井戸や洗い場に町民の手でタイルを貼る、木を植える、植木棚を設けるなど描いてはいますが、費用がかかります。そこで資金を得ようと、横浜市の町

普請事業コンテストに出て提案しましたが落選。実現は困難ですが、加藤さんは「悔しいから再挑戦しますよ」と意気込んでいます。

加藤さんによると、浦島町の井戸の水源は近くの浦島山あたりだろうとのこと。山の木々を残すのも、井戸の存続に大切な要素です。町作り協議会では、子どもたちに井戸を通して地域への関心を深めてもらおうと地元の小学校に働きかけました。昨秋に、神奈川小の4年生と小安小1-6年生、60人が16カ所の井戸めぐりラリーに参加しました。今年もまたとの要請があり、地下からの恵みの水を実感できる井戸は、学びの場としても見直されて来ています。

ササキミチコ



リサイクルバスツアー

昨年、11月24日秋晴れの爽やかな空気の中、横浜資源化協議会主催の『リサイクルバスツアー』が行われました。このツアーはオフィスでリサイクルに関わる人たちにリサイクルの現場を知ってもらおうと企画され、参加事業所は9社、参加人数11名で用意したマイクロバスに大入り満員でした。

* 横浜資源化協議会

実行本部を当組合内に置き、オフィス古紙の資源化向上を目指して古紙回収の基本的業務やリサイクルの提案をしています。

朝11時に横浜駅に集合した後、まずは協議会の拠点であるリサイクルポート山ノ内へご案内。参加者は広い構内にうすたかく積まれた古紙や古布に圧倒された様子です。

構内を作業工程順に回りながら、古紙が運び込まれてから圧縮梱包されるまでの流れを説明。そこで、分別して出されている古紙をもう一度選別しなおして梱包するのは、再生紙の原料として品質第一を考えてのことだと解説を聞くと「窓付き封筒はどうやって出したらいいか」^{*1}「古紙をビニール袋に入れて出してもかまわないと言われたが大丈夫か」^{*2}など具体的に熱心な質問が出ました。

*1 *2 1口メモ

家庭から出される窓付き封筒は窓の部分「もやすごみ」へ。その他は「その他の紙」へ。

その他の紙は紙袋に入れて紙ひもでしばるのがベストですが、ない場合はビニール袋に入れて出してもかまいません。

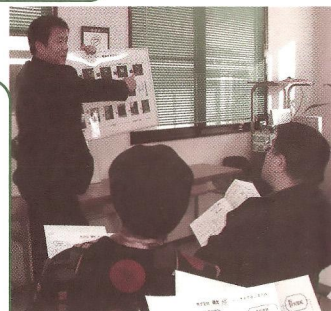
その後事務所にて、ISO取得を視野に入れたCO₂削減方法など、事業所ならではの環境への取り組み方のヒントを伝授され「リサイクルして何になるかを考えると分別しやすくなる」という話に、なるほどとうなずき、「シュレッターは実はコスト高」と聞き驚く姿も。

機密文書が入ったダンボール箱が、監視カメラのついたシャッターのある処理室へ運び込まれ、その状態のままで破碎される工程を見学。この事業所では、紙を事務ファイルに閉じたまま出されても古紙とその他の不純物（プラスチックや金具）が分別され、その不純物も残さずリサイクルされています。

午後は、金沢区にある機密文書などの回収、処理を行っている(株)國光 横須賀事業所へ向かいました。

また、シュレッターにかけられた紙は繊維が断ち切られているので再生できないが、ここの事業所で処理された紙はむしろ状態なのでリサイクルできるということを知った参加者からは「シュレッターくずはかさが増えて保管場所の確保が大変。なおかつリサイクルに向かないというなら処理方法を検討したい」という声も聞かれました。

丸一日かけてのツアーを終えた参加者は、「実際の現場を見られてすごく勉強になった」「ISO14001の更新をするので、資源化協議会に後日詳しく説明をしてもらって方針を練りたい」等、事業所のリサイクルに対する考えを新たにしようでした。



牛乳パックから
生まれた紙ひも

こむすび
小結くん で古紙をしばれば
まるごとリサイクル



1巻きの長さ90m		価格(税込)	送料
バラ売り		1巻230円	1~6巻400円 7巻~ 600円
箱売り (1箱50巻)	1~9箱	1箱10500円 (1巻210円)	価格に 含まれます
	10箱~	1箱 8500円 (1巻170円)	

*振込手数料をご負担ください

お申し込み 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お問い合わせ TEL045-444-2531/FAX045-444-2532

小結くん販売場所 ●横浜市青葉区・都筑区・鶴見区・神奈川区・保土ヶ谷区・中区の区役所売店 ●グリーンバザール(南区) ●コミュニティストアすずきや(戸塚区) ●御菓子処おきな堂(神奈川区) ●武松商事(中区) ●村松商店(鶴見区生麦) ●おおぐち通商店街事務所(神奈川区) ●ぶらわろーど杉田商店街事務所(磯子区) ●バラエティたかはし屋(神奈川区) ●どりーむ横浜二番館(西区)

販売してくださるお店募集中!

尚美のマクロビオティック



津村尚美

プロフィール
1955年生まれ
(有) ナチュレ企画代表
フェアトレードショップ
「まあじょうむ」を経営
中に料理に目覚める。
つづつブッキング研究
生を経て現在マクロビオ
ティック師範科。著書「エ
スニック料理」

「陰」と「陽」この言葉をご存知の方が多いと思います。マクロビライフの根本は、この陰と陽の性質を理解する事に尽きると思いますが、あまりに深く広く、哲学及び生き方にまで関わってくる内容なので簡単に語る事はできません。まずは、表面的なことから始めましょう。

「陰」は中心から外側へ広がっていく力・遠心力であり、拡散していきつついく求心力で、収縮していきまします。あらゆる物は、陰陽のエネルギーから成り立っています。この陰陽を食べ物の性質からみると、陰性の食べ物は体を冷やして緩めるもので、甘い、酸っぱい、辛い、水分が多い、カリウムが多いもの。反対に陽性の食べ物は体を温めて引き締めるもので、塩辛い、苦い、渋い、水分が少ない、ナトリウムが多いものとなります。そして私たちの体はこの陰陽のバランスをうまくとりながら機能しています。体的には、できるだけ中庸と言って陰にも陽にも傾きすぎない食べ方が大切とされています。

今回からしばらく陰陽の説明を兼ね、マクロビオティックの基本食を紹介したいと思います。

ひじきれんこん

作り方

- 1) 長ひじきは水につけて戻し、3cm長さに切る。戻し汁は捨てずに取り置く。
- 2) れんこんはいちよう切りにする。にんじんは3cm長さの短冊切りにする。



空けたところで、れんこんを炒めたらひじきを炒める。鍋の端に寄せる。

- 4) にんじんを入れて落とし蓋をしてさらに煮て、沸騰したら弱火でじっくり煮ていく。途中でしょうゆを3回に分けて加えて味を調える。



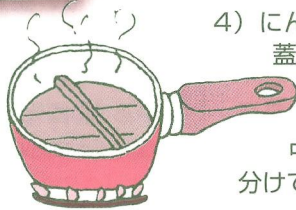
れんこんとひじきを混ぜ合わせ、戻し汁を入れて煮る。

材料 (4人分)

長ひじき (戻した物)	120g
れんこん	80g
にんじん	50g
ごま油	大さじ1
戻し汁	260cc
しょうゆ	大さじ1

ミネラル豊富なひじきとれんこんを合わせたマクロの基本食。気管の弱い子ども、ぜんそくの方、冷え性の方などにおすすめ!

弱い火でじっくり時間をかけて煮ることでより陽性になり、おいしくなる。



情報ファイル

三菱電機がエアコン回収値下げ、鉄・アルミ高騰で

2007.1.15 読売新聞

電機大手の三菱電機が、消費者が家庭用エアコンを買い替える際に家電販売店を通じて支払うリサイクル料金を、現行の3675円(税込み)から525円引き下げ、3150円とすることが15日、わかった。

4月1日から実施する。2001年4月施行の家電リサイクル法に基づき、冷凍・冷蔵庫、ブラウン管テレビ、洗濯機、エアコンの4品目のリサイクル料金は全品目で業界一律だったが、三菱電機の引き下げで横並び料金の一角が崩れる。

エアコンの部品に使われている鉄やアルミニウムなどの価格が相場高騰で上昇しているため、三菱電機は料金引き下げで消費者に利益を還元することにした。エアコンの買い替えを促す狙いもある。

現行のリサイクル料金(税込み)はエアコンが3675円のほか、ブラウン管テレビ2835円、洗濯機が2520円、冷凍・冷蔵庫が4830円。

三菱電機はテレビと冷凍・冷蔵庫についてはリサイクルの収支状況が改善していないため、当面、引き下げない見通しだ。

リサイクル料金はメーカー各社が個別に決めているものの、製品回収の仕組みを複数メーカーで協力して導入していることなどから現在は一律になっている。家電リサイクルは、小売店が回収した製品をメーカーが引き取り、部材を取り出し、業者に売却するなどして再利用されている。

ドキュメンタリー映画「不都合な真実」

2006.12.28 Re-Style H P

アメリカで話題のドキュメンタリー映画「不都合な真実」をご存じですか?

元大統領候補のアル・ゴアが、ライフワークのひとつとして行ってきた環境問題に関するスライド講演を映画化したもので、新春1月20日、全国ロードショーです。

地球は人類にとって、ただひとつの故郷。その地球が、今、最大の危機に瀕している。キリマンジャロの雪は解け、北極の氷は薄くなり、各地にハリケーンや台風などの災害がもたらされる。こうした異変はすべて地球の温暖化が原因といわれる。年々、上がり続ける気温のせいで、地球体系が激変し、植物や動物たちは絶滅の危機にさらされる……。傷つい

た地球を救うため、一体、今の私たちに何ができるのだろうか?『不都合な真実』オフィシャルサイトより

中野区: 古紙回収、住民団体に移行07年4月から 東京23区で初

2006.10.18 毎日新聞

古新聞などの古紙回収について中野区は07年4月、行政による回収から町会や自治会による集団回収に移行する。区によると、すべての古紙を住民団体主体で回収する取り組みは23区で初めて。

同区はこれまで、行政主体で古紙回収していたが、集団回収をしている一部の町会から「区と町会とで二重回収になってしまう」と指摘があり、町会連合会は区に対し集団回収促進を提案した。区は05年度から行政回収停止モデル地域を定め、徐々に移管。10月には区内世帯の53%が集団回収に移行している。

区は、集団回収を進める上で1キロ6円の報奨金を支出している。06年度は行政回収の費用と集団回収の報奨金の合計が約2億2200万円(うち行政回収費約1億3200万円)だが、07年度は報奨金の1億2000万円だけになり、経費面でも約1億円の削減になるという。

ポイ捨てはだめ、分別が大切と伝えたいから

ミーオくんが保育園で分別教室

給食調理の際に出る野菜くずなどを肥料にしている清水ヶ丘保育園。園児たちも手伝って毎日1〜1.5キロほどの残さを肥料化しています。ここに12月のある日、“ぶんべつのおねえさん”と“ポイすておにいさん”を従えてヘラ星人ミーオが現れました。0歳から5歳までの園児たちは大喜び。

おねえさん：横浜市はG30に取り組んでいます。ごみを減らしましょうという呼び掛けですが、みんなも野菜や果物の皮を肥料にすることをしているんだよね、その肥料のおかげで園庭のお花も草も木も元気なんだよね。

園児たち：うん、そうだよ！

おねえさん：あ、あっちからおにいさんがやってきたよ。

おにいさん：（新聞もお菓子の袋もペットボトルもすべてポイッと捨てる）



ミーオ：だめだよ～！

おにいさん：だって、分別のしかたがわからないんだ。

おねえさん：だれかおにいさんに教えてくれる人は？

という掛け合いのすえ、ポイすておにいさんは正しい分別のしかたを園児たちから教えてもらいました。「みんなありがとう、これからは“ぶんべつおにいさん”になるよ」と感謝し、最後は園児たちがお礼に『うさぎ野原のクリスマス』を元気よく合唱して幕となりました。4歳児クラスの保育士小酒井祐美子さんは「ふだん園でやっている分別ですが、その必要性を再確認できたと思います」とにっこり。

この試みは昨年3月に始まり、6月から市立保育園をひと月に1園ずつ回って披露してきたそうです。「2007年は



私立保育園や幼稚園に行きたいと思っています。始めたころは緊張しましたが、だんだん慣れて楽しくなってきました」とおねえさん役の南区資源化推進担当小林紀子さん。ポイ捨てはいけないことや分別の大切さを、小さな時から知ってもらおうと始めた企画だそうです。南区ではほかに“ふれあい収集”にも取り組んでいます。これは、集積場所に資源物やごみを出すのが困難なひとり暮らしの高齢者や障害のある方のため、持ち運びを子どもたちがボランティアで引き受けるというもの。現在区内2つの小学校で行なわれており、地域の温かな交流にもなると好評です。

りくみちゃんのぬりえに挑戦！

ぬりえは右脳を活性化させます。



文章力は現代の必須能力です。

右脳を開発してグングン頭が良くなる、しかも、楽しい仲間ができる。ちょっと変わった文章講座です。

<文章講座の内容>

- 文章テクニックが習得できます。
- メールや授業内で添削指導します。
- メーリングリストで仲間との交流ができます。
- 体験プログラムで感じたことを文章に書きます。
- グループに分かれて感動体験プログラムを実施します。

東京クリエイターズネットの「文章講座」は、マインドマップや作画など、右脳開発の手法を取り入れて文章を教えます。さらに、バリデーション・サークルなど仲間づくりのプログラムもあり、楽しく文章を学んでいきます。まずは、メールでお問い合わせください。

2月24日(土) 15:00～18:00

定員：20名

受講料：今回は無料です。テキスト代(千円)が必要です。

場所：横浜市内です。詳細はメールでご案内します。

まずは、下記アドレスへ名前と住所をお送りください。

(tcnet@excite.co.jp)
※FAXでのお問い合わせは03-3262-1092まで

(株)東京クリエイターズネット

東京都千代田区神田神保町3-9 高橋ビル2F

http://www.t-c-net.jp



第6回サポーターズミーティング

もっと知りたい古紙の資源集団回収のこと

テーマ

「古紙リサイクルの現状と民間収集事業の可能性」

日時 3月11日(日) 13時30分～15時30分
会場 横浜市市民活動支援センター

(桜木町駅徒歩7分 みなとみらい21クリーンセンター5F)

募集人員 50名

内容 ・古紙リサイクルの現状についてパネルディスカッション
・中野区の取り組みをもとに横浜での民間収集事業の可能性についての意見交換

本誌読者の皆さんと組合員が3Rについて一緒に学ぶサポーターズミーティング。今年は、古紙の集団回収をテーマにパネルディスカッションを行います。パネリストは、昨年行政回収を一切やめ集団回収のみで古紙のリサイクルに取り組むことを決めた東京都中野区からの論客横倉正志氏ほかを予定しています。参加者からの質疑応答の時間もあります。

今後自治会や子供会などで取り組もうと考えている、古紙の地球規模でのリサイクルについて知りたい、などとお考えの方はぜひご参加ください。

パネリスト

横倉正志氏

(特定非営利活動法人
社会資源再生協議会理事長)

栗原清剛

(横浜市資源リサイクル事業協同組合 ジュニア部会長)

工藤健一

(横浜市集団回収推進部会 副部会長) ほか

司会

戸川孝則

(横浜市資源リサイクル事業協同組合)

お申し込み方法

ハガキ、ファックス、Eメールに住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ下記まで。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

〒221-0054 横浜市神奈川区山内町13

横浜市資源リサイクル事業協同組合 サポーターズミーティング係

FAX/444-2532 Eメール/mail@recycledesign.or.jp

*当日参加者には後日こちらから案内を発送します。 *締め切りは2月25日です。

リサイクルプラザの講座を利用してみよう!

リサイクルプラザでは市民向けに定期的にエコ講座を開催しています。今回は青葉・港南の両リサイクルプラザ講座、18年度2、3月の予定をお知らせします。

材料費は各自負担になります。

講座開設時間 10:00～15:00

休憩時間 12:00～13:00

申込みは電話、FAXをお願いします。

青葉リサイクルプラザ TEL 911-6255 FAX 911-6522

港南リサイクルプラザ TEL 834-1580 FAX 834-1576

○先着順に申込みを受付け、定員になり次第締め切ります。

(定員 各講座10人)

○材料費、当日の持ち物等は、申込み時に確認してください。

平成18年度リサイクルプラザ講座予定

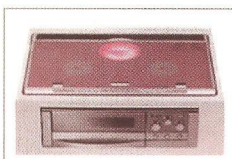
港南リサイクルプラザ	2月	3月	青葉リサイクルプラザ	2月	3月
エコバック	18日	18日	エコバック	10日	24日
包丁・ハサミ研ぎ	20日	20日	包丁・ハサミ研ぎ	16日	16日
PPバンドでかご	26日	26日	PPバンドでかご	12日	12日
エコぞうり	28日	28日	エコぞうり	16日	16日
パッチワーク	20日	20日	パッチワーク	27日	27日
石けん	17日	17日	石けん	18日	17日
	24日	24日		18日	17日
紙すき	18日	18日	紙すき	15日	15日
	25日	25日		22日	22日
			押し花	15日	15日
				22日	22日



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

株式会社エコライフはチーム・マイナス6%の会員です。



❖ IHクッキング

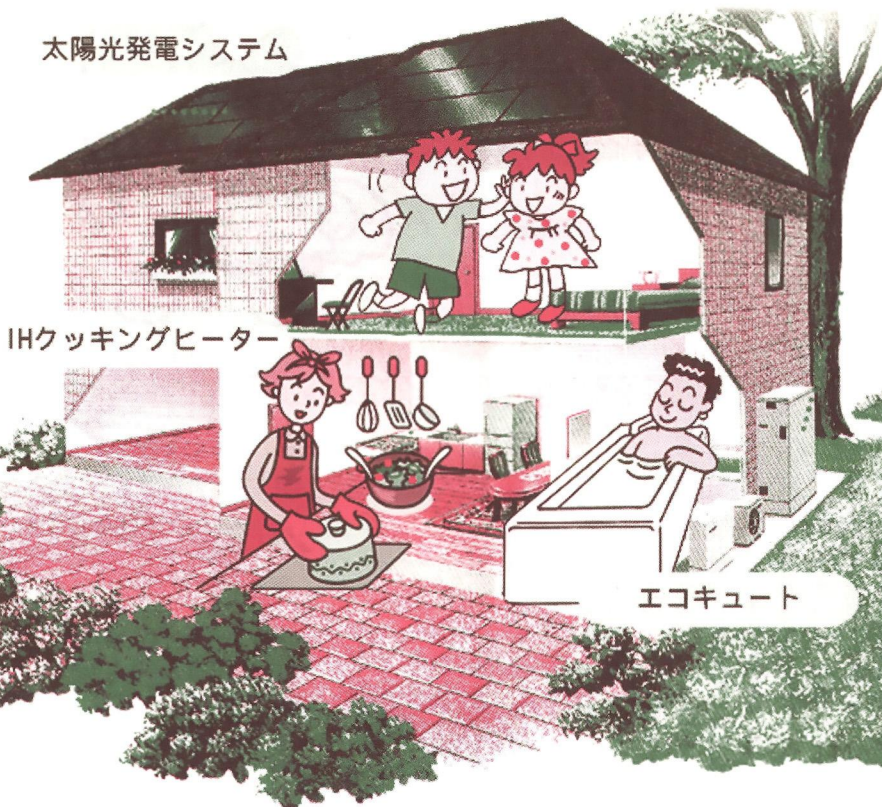


❖ エコキュート



❖ 太陽光発電

太陽光発電システム



はじめよう、**快適**エコライフ

エコライフでは、今までの光熱費の枠を越えることなく
オール電化に移行できるプランをご提案します。

お見積もり無料

お気軽にお問い合わせください

◎自社施工の安心

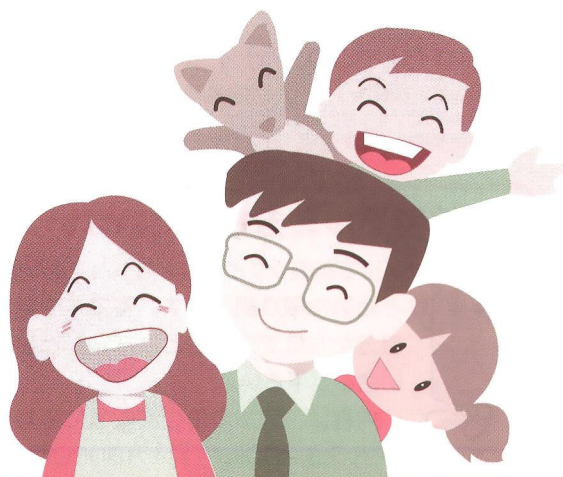
◎アフターサービスは365日24時間

◎東京電力への申請、ガス解約も当社でお任せ

◎適切なシミュレーションと無料お見積

◎特別低金利ローン可能

◎1年ごとの定期点検



お問い合わせは

0120-41-9095

<http://www.eco-life.org/>

人と環境にやさしい生活



株式会社エコライフ

〒254-0034 平塚市宝町4-14 ハネサムビル6F TEL: 0463-20-1833 FAX: 0463-20-1834

リサイクルデザインの
「りくみのトレペ」は
お値段そのままくみ!



INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

少し前の自分なら、壊れたらすぐに新しいものを買いたい気持ちでウズウズしたんですけど、今は「あ〜!!」って叫んで無ければいけないと何とかなるなという気持ちになっている自分に不思議な気分です。でもこれからはもう何も壊れませんがゆ〜と祈るばかりです。

編集室から
ここ半年間、身の回りの電化製品の調子悪かったり壊れることが続いています。ビデオのリモコン、エアコン、カーナビと、立て続けに壊れたときは、さすがに呪われてるのではないだろうかと思いつくほどでした。買い換えればいいのだけれど、懐かしいのでビデオは本体だけで操作。エアコンは夏暑しかったけど扇風機で耐え(冬はストーブなので大丈夫)、カーナビはちょっと修理代がかかるけど修理して使い、買い換えません。で、何とか生活をしていたら結構慣れてきまして不便と感じないんですね。

月刊リサイクルデザインは 次の場所に置いてあります

●マリンスポーツデスク・リップル(鶴見日新ビル2F) ●グリーンパザール(南区六ツ川) ●地酒篠原屋(港北区篠原) ●神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店 ●損保ジャパン横浜支店 ●東京ガス環境エネルギー館 ●マルエツ大倉山店 ●相鉄ローゼンミツ境店・港南台店・大田店・二俣川店・緑園都市店・いすみ中央店・山手台店・白根店・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いすみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・ひかりが丘店・希望が丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安店・十日市場店・上里川店 ●マイカル天王町サティ店 ●ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店 ●カフェ社(港北区日吉) ●うどんカフェ(青葉区こどもの国) ●リサイクルショップ「トロワの森」 ●横浜国立大学生活協同組合大会館店・工学部店 ●神奈川県中小企業団体中央会(中区尾上町) ●リセールショップ遊民 ●WEショップ旭 ●WEショップかながわ大田店 ●WEショップかながわ六角橋店 ●WEショップこうほく ●WEショップほどがや天王町店 ●WEショップちがさき店 ●WEショップちがさき十間坂店 ●リサイクルショップブランカスター(西区) ●WEショップ・あおばあざみ野南

●リサイクル標準価格表

2006年12月現在 日経12/28

品名	買入価格 1キロ当たり	業者の売値 1キロ当たり
新聞	0円	6.5~7円
雑誌	0円	4~4.5円
段ボール	0円	5~5.5円
衣類くず	設定不能	0~1円
アルミ缶	* 10~15円	

- ★集団回収には「買入価格」を適用
*スチール缶と選別済の価格
- ★500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。
取引条件により多少変化します。
- ★事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。
事業所ごとに業者と直接ご相談ください。
- ★段ボールは必ず束ねて出してください。

月刊 リサイクルデザイン No.149

発行所: 横浜市資源リサイクル事業協同組合 〒221-0054 横浜市神奈川区山内町13番地 TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532 (編集室)
発行日: 2007年1月25日 発行人: 秋元康男 編集人: 工藤健一 編集室: 戸川孝則・竹澤留美
広報企画委員会: 山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継・杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛・栗原清剛・大内 敦・船崎 健 制作: (企)エコ・アド 印刷: (株)横浜プリント

学校等アルミ缶もったいないプロジェクト



“空き缶のリサイクルをもっと身近に感じてもらう”と始めた取り組みです。省エネや環境保護のために、自分たちにできることはないかと思っただけでお問い合わせ下さい。

内容は、アルミ缶の回収量に応じた代価を提供、あるいはアルミ缶200kg(約1万2000個)と車いす1台を交換するという形です。現在、学校や幼稚園、保育園、子供会などさまざまな団体が活動中です。環境教育のみならず、福祉への関心を育てるための一助としてご活用ください。

車いす交換実績

平成16年 9月 2日	潮田小学校(鶴見区)
平成17年 3月 3日	岡村小学校(磯子区)
平成17年12月 22日	潮田小学校(鶴見区)
平成18年 3月 10日	杉田小学校(磯子区)
平成18年 6月 8日	希望ヶ丘小学校(旭区)
平成18年 7月 18日	東台小学校(鶴見区)

リサイクルデザインのビデオ 「未来を生み出すリサイクル」

このビデオは、暮らしの中から出る資源物(古紙・空き缶等)がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等にご活用ください。



詳しいことは 横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532

●広告掲載のお問い合わせは
(株)東京クリエイターズネット TEL 03-3262-1093まで

月刊リサイクルデザインは古紙100%の再生紙と環境にやさしいSOYINK(大豆インク)を使用しています。2007.1/57,000

